

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

| | | | | |
|------------------|-------------------------------|---------------------------|---|-------------------------|
| 名称： | 学校法人 鎌田学園 あづまの幼稚園・あづまのナーサリー | 種別： | 認定こども園 | |
| 代表者氏名： | 理事長 鎌田 康夫 | 定員（利用人数）： | 260（181）名 | |
| 所在地： | 246-0011 神奈川県横浜市瀬谷区東野台38-2 | | | |
| TEL： | 045-301-6744 | ホームページ： | http://www.adumano.ed.jp/ | |
| 【施設・事業所の概要】 | | | | |
| 開設年月日 | | 1975年2月23日 | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）： | | 学校法人 鎌田学園 | | |
| 職員数 | 常勤職員： | 30名 | 非常勤職員： | 20名 |
| 専門職員 | 保育士 | 32名 | 栄養士 | 1名 |
| | 看護師 | 0名 | 調理員 | 3名 |
| | 事務員 | 2名 | | |
| 施設・設備の概要 | 居室数 | 保育室13室、調理室、職員室、事務室、台所、執務室 | 設備等 | 園庭、屋上プール、エレベーター、駐車場、体育館 |

③理念・基本方針

【理念】

創立からの設立趣旨である、人と人との触れ合いを大切にする教育の場として、誠実で思いやりのある教育の場としての誇りを忘れずに、人間としての尊厳と情熱を持って次代の担い手である子供たちを心豊かに、優しく暖かく育つような教育に当たることが目的の幼稚園である。

【基本方針】

☆豊かな遊びの確保…遊びの中から育つ人間としての出発点を大切に見守りながら育てます。幼児期は友達と関わり、自然と関わって遊ぶ事が大切な時期です。遊びを通して人間としての「生き方」を学ぶ大切な時期です。集団という幼稚園生活の中で「遊び」は中心になる大切な活動です。

☆基本的生活習慣を身につけること…子供の生活サイクルをしっかりと身につけさせ、自立できるようにすることが大切なことだと考えています。子供の生活サイクルとは、よく寝て、よく食べて、よく遊ぶことです。特に早寝早起きは最も大切なことであり、朝陽に当たること事による自律神経系統の働きは、生物として体内時計を形成する大切な役目があります。

☆親子の触れ合いを大切にする…乳幼児期は母子融合期間であることが大切です。この期間は出来るだけ一緒に活動をして見守ってあげることが大切です。母親に愛されることによって人を信頼することを学び、人を裏切らない誠実さや優しさを身につけていきます。

④施設・事業所の特徴的な取組

あづまの幼稚園は昭和50年に幼稚園として創立し、平成21年に認定こども園として「あづまの幼稚園・あづまのナーサリー」の運営を開始しました。教育目標として、「健康な体、健全な精神をもった子どもを育てる」「五官を通して正しい刺激を与え、情緒豊かな心をもった子どもを育てる」「いろいろな体験を通し、すぐれた知力を働かすことのできる子どもを育てる」を掲げています。子どもが多くの経験ができるよう、日々の活動の中でたくさんの遊びや製作を行うほか、特別活動として、専門講師による英語、体操、水泳、絵画、音楽、リトミックを行っています。そのほか、課外活動として、新体操、サッカー、ピアノやバレエ教室などを希望者に向けて有料で実施しています。また、子どもたちが豊かな体験ができるよう、行事も多く行っています。園外保育、ミニスポーツ大会、アクションペインティング、夕涼み会、運動会、鼓笛フェスティバル、作品展、音楽会やお遊戯会などを企画し、年齢に応じて子どもたちがみんなで協力し合って一つの行事を作り上げています。園で行う行事には、五官を通して体験できる、目的意識をもって行動できる、社会性を養うことができる、主体的に参加できる、日本古来の文化を伝承できる、楽しい心の財産をたくさん残すことができるなどたくさんの意義があります。広い園庭、体育館や教室をフルに活用し、人や自然との触れ合いに重点を置き、保護者と連携を取りながら、教育・保育を行っています。また、体を作るのは食事であるという考えのもと、食材を厳選して給食を提供し、年齢に応じた食育活動を行っています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|--|
| 評価実施期間 | 2023年4月28日（契約日）～ 2023年10月30日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 1回（2011年度） |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子どもの豊かな感性を育むさまざまな取り組みをしています

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために大切な時期であると考え、子どもたちがたくさんの経験ができるよう、日常の教育・保育や行事などにおいてさまざまな取り組みをしています。日常の教育・保育においては、行事や季節に合わせて製作や絵画を行うほか、特別活動として専門講師による体操、絵画や英語などを行っています。行事としては、園外保育、運動会、お遊戯会、作品展などの行事を行うほか、アクションペインティング、夏季保育のイベント、動物村、鼓笛フェスティバルへの参加、春を呼ぶ音楽会、ニューイヤークンサートなど園独自の行事を企画しています。これらにより子どもの豊かな感性が育てられています。

◆幼児期を「生きる力」の源であると考え、教育・保育を行っています

園では創立以来、人と自然との関わりを通して子どもの情緒と人との信頼関係を育てることを大切に考えています。その上で生涯にわたりたくましく「生きる力」の源を育てる教育・保育を実践しています。園の教育目標は「健康な身体、健康な精神をもった子どもを育てる」「五官を通して正しい刺激を与え、情緒豊かな心をもった子どもを育てる」「いろいろな体験を通し、すぐれた知力を働かすことのできる子どもを育てる」です。実践に向けて運営方針を明確にし、毎年年度初めに全職員で研修を行い、運営方針が浸透しています。子どもの拠り所としての役割、活動の主体は子どもであること、やることによって能力が育つことなどを伝えていきます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

久しぶりの受審となりましたが前回受審時から内容が大幅に変更となっており、心機一転、新たな気持ちでの受審となりました。

園の教育理念、基本方針を高く評価して頂いたことは今後の運営に関して大きな励みとなりました。特に大事にしている子ども主体の考え方で園の運営を行っていることを高く評価して頂きました。ただ不足していることもご指摘頂きましたので今後の改善、見直しに尽力したいと考えております。

保護者の皆様方にはお忙しいところ、アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。

本園の教育方針にご賛同頂き、大切なお子さまをお預け頂きましたこと改めて感謝申し上げます。今後ご支援ご協力をお願いすることもあるかとは思いますが、職員一同精一杯頑張らせて頂きます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり